

しっかり
チェック!!

「わがまちの財政状況」

(平成21年度塩尻市決算説明資料より)

塩尻市の起債残高 = 「塩尻市の借金の総額。市民一人当たり約97万円」

(単位：百万円)

区分	H19	H20	H21
塩尻市	67,014	66,107	64,765

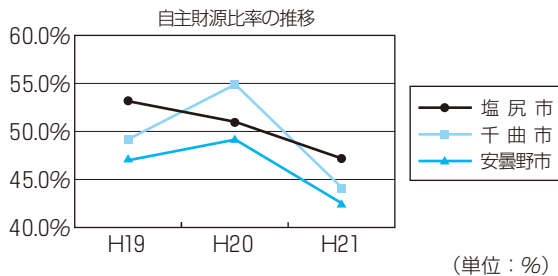
市の一般会計や介護保険事業などの特別会計、水道事業などの公営企業会計などすべての会計を含めた借金の総額。

類似団体	H21末人口	備考
塩尻市	67,208人	H17. 4.1合併
千曲市	62,721人	H15. 9.1合併
安曇野市	97,481人	H17.10.1合併

塩尻市の財政状況をわかりやすくするため、5つの数字について県内の類似団体の数字と併せて掲載しています。類似団体＝国（総務省）が人口及び産業別就業人口の構成比によって分類したもので、県内では千曲市と安曇野市の2市が、塩尻市と同じ分類です。

自主財源比率

= 「収入源を、国や県に頼っていない数値」



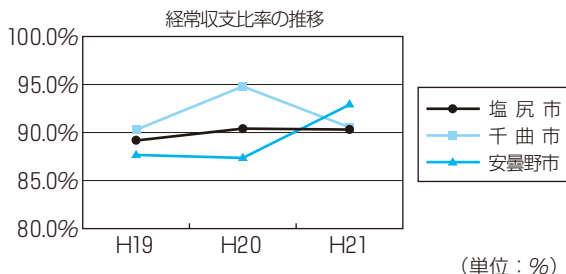
(単位：%)

区分	H19	H20	H21
塩尻市	53.3	51.0	47.1
千曲市	49.3	54.7	44.0
安曇野市	47.2	49.2	42.5

市が自主的に収入し得る財源（地方税・使用料・手数料・財産収入等）の歳入総額に占める割合。行政活動の自主性と安定性を確保し得るかどうかの尺度。

経常収支比率

= 「数値が少ないほうが、ゆとりがある」



(単位：%)

区分	H19	H20	H21
塩尻市	89.5	90.4	90.2
千曲市	90.4	94.8	90.5
安曇野市	87.6	87.3	93.0

人件費や公債費等の義務的性格の経常経費に、地方税、地方交付税などの経常一般財源がどの程度充当されているかを見ることで、財政の弾力性が判断できる指標。一般的に市は75%程度が妥当とされているが、近年では団体の意思では削減することのできない義務的経費が増加し、全国的にも75%を越える団体が大半を占めている。

積立金残高 = 「いざという時のための積立金」

(単位：百万円)

区分	H19	H20	H21
塩尻市	4,058	4,591	4,511
千曲市	7,126	5,967	6,114
安曇野市	13,354	12,938	12,383

将来の財政需要や不測の事態に備えるために積み立てているもの。

塩尻市は県内類似団体の中で市民一人当たりの積立金残高は最も少ない額となっている。

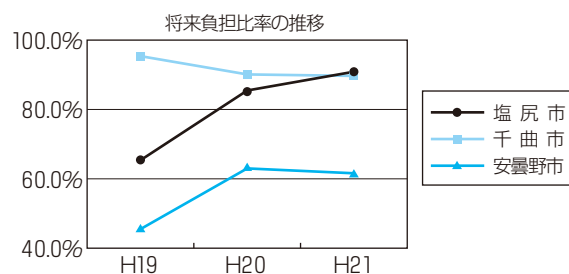
市債残高 = 「市が抱える借金の額」

(単位：百万円)

区分	H19	H20	H21
塩尻市	27,305	27,489	27,413
千曲市	27,517	26,611	26,392
安曇野市	36,511	35,720	35,787

市の借金総額から、下水道事業などの公営企業会計や介護保険事業などの特別会計の借金を除いた普通会計の借金残高。

将来負担比率 = 「市の年収に対する借金残高の割合」



(単位：%)

区分	H19	H20	H21
塩尻市	65.9	85.0	92.0
千曲市	96.8	91.5	91.2
安曇野市	45.8	63.7	61.2

市の一般会計等の地方債（借金）残高のほか、水道事業などの公営企業、市が出資している第3セクター等に対する借金を含めた額から市の標準的な年間収入を割ったもの。

国はこの数値が、350%（借金残高が標準年収の3.5倍の額）を超えるとイエローカードとしています。